



### 笑うカイチュウ： 寄生虫博士奮闘記

藤田 紘一郎  
講談社文庫  
491.9||F67

地域連携推進課  
佐藤 知恵子さん

国際化、ペット、ジビエ、自然食。20歳の頃からブームは絶賛継続中。これらのワードにピンときたら、以下の用法・用量を守ってお読みください。

- ・食事前後に読むのは避けてください。
- ・「カイチュウ」のみで検索するのも避けてください。
- ・出版時と現在で医療や世間の事情が異なる部分もありますのでご了承ください。



### まさお君がくれたもの

講談社 MouRa 編  
講談社  
916||Ko19

図書課  
工藤 未央さん

とあるTV番組の人気者だった旅犬のまさお君。見る者を笑顔にしてくれる愛すべきおバかな彼と、相棒の芸人・松本君、そして見えないところで彼らを支えるスタッフたち。TVの前でたくさん笑わせてもらったからこそ、まさお君の引退と突然の訃報には多くの人が涙しました。よくある「泣かせにくる本」ではない一冊です。



### 検屍官シリーズ P.コーンウェル

講談社文庫  
933.7||C88

地域連携推進課 (元・教務学生課)  
伊藤 彩子さん

パトリシア・コーンウェルの検屍官ケイシリーズは、女性検屍局長ケイが検屍結果を基に、警察やFBIの捜査官らと協力して難解な殺人事件を解決する物語。法医学による謎解きの面白さもさることながら、仕事では有能なケイが、同僚、家族、恋人などとの関係に悩みながらも真摯に向き合う姿に、尊敬と親しみを感じていました。

公立大学法人青森県立保健大学開学 20 周年記念

## 20歳の頃どんな本を 読んでいましたか

開学 20 周年を記念して、ラポール初の増刊号をお届けします。  
人生の先輩はどんな本を心の糧にしていたのでしょうか。  
教職員のみなさんが 20 歳の頃に読んでいた本の世界へご案内します。

図書館だよりラポール増刊号 平成 30 年 6 月 1 日 発行

発行者 青森県立保健大学附属図書館

〒030-8505 青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

電話 017-765-2011 URL <http://www.uhw.ac.jp/library/index.html>



『ラポール』は、人間同士 (学生 & 教職員 & 地域住民 & 県民) のつながりを意味します  
Rapport : フランス語で、関係・関連・類似点



## キリスト教(カトリック)の本

私の家の宗教は神道です。看護を学んでいた 20 歳の頃は、キリスト教の大学で、毎日聖書を読む機会がありました。学生時代、苦しい時に一つの解決策を明示してくれたのが聖書です。生きる上で大切なことをたくさん学びました。信仰とは別に読み物としての聖書は、困難に打ち勝つ力を与えてくれました。

看護学科

大関 信子先生



**世界システムの政治経済学**  
ロバート・ギルピン  
大蔵省世界システム研究会訳  
東洋経済新報社  
333.6||G45

栄養学科

浅田 豊先生

専門を深め、幅広い視野をもつために高校生時代に続く海外での活動計画をイメージしていた二十歳の頃、「周辺国は搾取され後進的で低開発」といった見解にふれ、政治的な健全さ、相互に寄生的に振る舞わないこと、企業の自立支援、一次産業への適切な投資、国民所得の公正な分配が重要であることの示唆を受けました。



**Love Again : スケボーに乗った天使**  
浜田幸  
ダイナミックセラーズ出版  
916||Ta84

20 歳の頃、私は理学療法士を目指している学生でした。授業でよく聞く「人生の質」という言葉自体には馴染みはあったもの、活字でしか理解していませんでした。そんな私に「人生の質」を具体的にイメージするきっかけをくれたのがこの本です。読後、スケボーに乗った天使に癒されているはずです。

理学療法学科

木村 文佳先生



**河童が覗いたインド**  
妹尾河童  
新潮文庫  
292.509||Se72

経営企画室

今野 審さん

イラストだけでなく文章も手書きなので、生々しく、それがこの国のデジタルに載せきれない、もやとした部分の表現に適しているのではないかと思う。この本を読んだからと言って、インドの何が分かるわけでもないが、10年後に自分をインドに連れて行くくらい魅力を持つ本であることだけは確かだ。



**生きることと考えること**  
森有正  
講談社現代新書  
159||Mo45

20 歳の頃、人は自分について考えますが、そんな自分探しにこの本はヒントを与えてくれるかもしれません。あなたをユニークな存在にしているのは、あなた自身の経験です。この本では、その経験を深め、思考し、そして将来に向かって開かれていくことが、著者の人生を通して語られています。どうか、20 歳のみずみずしい感性で、自分について、自分らしく生きることについて考えてください。

社会福祉学科

出雲 祐二先生



**あおもり草子**  
あおもり草子編集  
企画集団ぶりがずむ  
212.1||A54

総務課

花田 理江さん

大学時代、地元の編集社でアルバイトをしていました。雑用だけと思いきや、原稿の校正や執筆をするに。ど素人の原稿を有料の情報誌に掲載していただき、いまだに恐縮です。当時わが家に迎え入れた、愛猫にまつわるエッセイでした。青森に特化した、風情と趣を感じられる情報誌です。